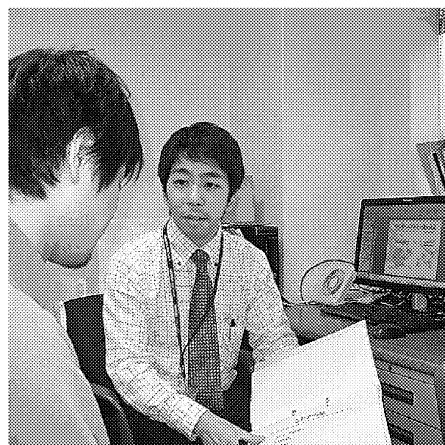


差額ベッド、栄養士、心理カウンセラー……。健康保険ではカバーしにくい費用でも生命保険などを活用し、末期がん患者が豊かな生活を送れるようコンサルティングを手掛けるトロッパス（東京・墨田）の社長を務める。

特に注目しているのは生命保険の「リビングニーズ特約」。医師から余命が短いと宣告を受けると、生命保険の死亡保険金を一部事前に受け取れる。多くの人が保険契約

### トロッパス社長 賢見 卓也氏(36)

## 末期がん患者ケア お金の問題までも



に付けているが、忘れてい  
ることが多く、実際は1〜5%  
程度しか使われていない。  
末期のがんでも、看護師が  
旅行に付き添えば、家族と一  
緒に旅ができる。家族が栄養  
士から指導を受ければ、毎日

の食事のバリエーションも増  
える。生命保険の一部を生前  
に活用することで、家族の負  
担も減らせる。  
リビングニーズ特約のほか  
にも生命保険の高度障害保険  
金や障害基礎年金など、十分

に生かされていない制度が多  
い。こうした仕組みを患者に  
紹介し、生活設計を手助けす  
るのがトロッパスの仕事だ。  
相談を受けたある患者の場  
合、借金を300万円抱える  
一方、生命保険は世話になっ  
た兄弟にできるだけ残したい  
と考えていた。アドバイスに  
より、加入していた生命保険  
のリビングニーズ特約を利用  
し、生前に得た約900万円  
を使って、借金を返し、残り  
を兄弟に渡した。

進む中で「国の財政に頼らな  
い、別の財布がないか」と考  
えた。日大大学院で改めて経  
営学を学び、生命保険など既  
存の金融商品を生かす方法を  
思いついた。  
トロッパスを起業したのは  
2009年。訪問看護を手掛  
ける医療法人社団で看護師と  
して働く傍ら、ベンチャー企  
業の社長も務める。  
今は社会保険労務士や弁護  
士などとも交流の輪を広げ、  
がん患者の家計の問題を解決  
しようと考えている。「病気だけ  
でなく、お金の問題もケアし  
たい」。あくまでも視点は、  
患者一人ひとりを支える看護  
師そのものだ。

生活面「医療」の記事やコラムに関するご意見、  
情報をファクス（03・6256・2774）か電子メール  
（iryu@tokyo.nikkei.co.jp）でお寄せください。